

日本産たんぽぽ屬ノ研究（其五）

小 泉 秀 雄

Hideo KOIDZUMI: *Taraxacum* Studies in Japan (V)

第四章 邦産たんぽぽ屬ノ種類（分類各論）

本章ニ於テハ今日マデニ知ラレタル邦産たんぽぽ屬ノ種類ヲ悉ク記載シ、各種ノ特徴ヲ略述スル。順序トシテ第一ニ余ガ新種發表以前ニ發表サレタル種類ヲ再吟味シ記載ヲ訂正シ異同ヲ判然タラシメ、第二ニ植物學雜誌及植物研究雜誌ニ余ノ發表シタル羅典文記載ヲ和譯要記スルコトスル。以上ノ外小泉源一、北村四郎兩氏ノ發表ニ係ル種類モ悉ク和譯要記シテ完璧ヲ期シタイト思フ。記述中ノ略語ハ次ノ如シ。

日植總覽ニ日本植物總覽第二版（1931）（牧野博士、根本兩氏共著）

植雜ニ植物學雜誌 植研ニ植物研究雜誌 植分地ニ植物分類地理 帝植名鑑ニ帝國植物名鑑（松村博士著） 植名彙、和部ニ植物名彙、和名之部（同著） 日植標目錄ニ東京帝室博物館天產課、日本植物乾腊標本目錄（牧野、根本兩氏共著）

第一節 既知ノ種類

本節ニハ從來日本ニ知ラレタル種類即チ日植總覽ノ第二版（1931）ニ掲出セル9種1變種ヲ記述ス。但シ正名異名共ニ特ニ必要アル外ハ最初ノ文献ノミヲ示シ他ハ省略ス。記相文ハ簡明多含蓄ヲ旨トスル故特殊ノ文語體ニ從フ。

注意：一以下各種ノ圖ノ番號ハ余ノ本誌ニ發表セシ圖ノ番號ナリ

1. *Taraxacum albidum* DAHLST. in Act. Hort. Berg. IV. no. 2, P. 11, fig. 2. t. 1. fig. 9-15 (1907): 日植總覽、P. 1272. (第2圖 18, 第3圖 8 第4圖 26-30 第5圖 53, 54 第6圖 11, 25) 第7圖 16 第8圖 27)

Syn. *T. officinale* WEB. var. *albiflorum* MAKINO in B. M. T. VII. P. 401 (1893); *T. albiflorum* KOIDZ. in B. M. T. XXXVIII. P. 94 (1924)

和名 しろたんぽぽ（正名）…牧野富太郎、植雜、VII. P. 104 (1893)。しろばなたんぽぽ（異名）…松村任三、帝植名鑑、II. 1, P. 668 (1912)

形質 全株多年草、大形一小形、葉及花莖ハ質稍柔軟、稍少葉黃白花、略15—40セメ稀12—15又40—50セメ長。根ハ單頭稀ニ2頭、稍細長、黒褐、頸部黒褐鱗屑粗着。葉ハ束生5—15、斜上一亞直生、稍淡綠一綠色、無毛一稍無毛、

匏狀倒披針形—倒披針形稀=廣倒披針形、不整逆向羽狀淺—深裂稀缺刻裂緣、概ネ多少狹有翼長柄、脚狹長楔形、先端銳形—銳尖形稀微突頭；羽裂片ハ三角形—長橢圓狀三角形稀長橢圓狀披針形、逆向稀=開出、全緣—細齒牙緣、間裂片ハ概缺如往々小形發育。花軸ハ1—5、花時葉ト同長—超出、直生—稍弓曲、最上部白羊毛稍密生—密生他ハ概ネ無毛。頭花ハ中形—中大形、白色；總苞ハ鐘形、卵—卵圓底、淡綠色上部ハ濃褐暗紫赤色、明=内外2列生、列片ハ概有角往々過半無角—微角；總苞外列ハ2—3列生、緩接斜上—散開出極稀稍反捲、列片ハ長橢圓狀披針形—卵狀披針形稀=卵狀長橢圓形、概ネ有尾、鈍頭—鈍銳頭、上部背面概ネ有角、角狀突起ハ往々顯著又不明、全緣無毛稀微毛緣極稀=毛—稍密毛緣、背面無毛網脈；同内列ハ1列生、亞直生、外列片ノ倍長以下、列片ハ線狀披針形—鑿狀披針形—鑿形、鈍—鈍銳端、全緣無毛極稀上部微毛緣、背面無毛1—3條脈、狹透明膜緣、上部背面概ネ有角；小花團ハ徑3—4.5セメ周邊白色中央淡黃色、周邊小花數列ハ白色下面褐—褐紫色、6縱脈5小鈍齒端、稍中部=花冠毛粗—極粗生、毛ハ1—2極稀3細胞ヨリ成立；雄蕊ハ5、聚葯花時挺出稍黃色；下位子房ハ稍壓扁有微刺、花柱ハ葯外=超出、柱頭ハ2裂花柱上部ト共=極微刺密生。瘦果ハ稍大形淡褐—褐色又藥色—オリブ褐色、褐壓扁、4,7—6稀6—6,3ミメ、幅1,3—1,7ミメ倒卵狀長橢圓形—倒卵狀紡錘形；果頭ハ倒圓錐形、無節2溝極微刺密生；果體ハ倒卵形5—7溝6—8肋（半側面=於テ）、棘狀突起稍密生、棘ハ斜上生、銳頭單一又ハ有小枝—鱗狀有枝、兩側最大漸下低小遂=瘤起=變化、滿面=極微刺稍密生；果脚ハ棒狀倒卵錐形截脚、上部ハ果體ト同溝下部減溝2—3合肋、兩側小刺1列生其他ハ稍平滑無刺—粗極微刺；果嘴ハ絲狀、果本體ノ2—3倍長、淡褐白色；冠毛托ハ倒圓錐形微齒緣、褐色；冠毛ハ ∞ 、有微齒、叢束生、淡褐白色（本種ノ記載ハ本屬ノ種ノ記載型トシテ稍詳記セシモ以下ハ簡記=從フベシ、讀者之ヲ諒セヨ）。

生態 日本暖溫帶ノ陽地ヲ好ミ原野、路傍、堤上、畑地等ニ生ジ濕地又ハ林内ヲ好マズ又寒地ニ適セズ、海邊=生ズルモ海岸ニ生ゼズ、要之陽生ノ平地乃至山麓=生ジ山中、深山、海岸、濕地等ニ生ゼズ。適地=於テハ稍粗乃至稍密生群落ヲ成セドモ分布限界地（南北共=）附近=到ル=從ヒ點々粗生乃至稀生トナル。葉莖稍柔軟往々有光澤、花莖葉共=比較的長大、高サ往々40—50セメ=達ス。頭花ハ日中=開展シ曇天、雨天、夜中=於テ概ネ閉ヅ、登果後ハ總苞片ハ悉ク反捲垂下シ、冠毛ハ（陽光=於テ）開張シ風=從テ飛散ス。花候ハ南=早ク北=遅ク、九州南端ハ三月中旬ヨリ四月=及ビ同中部ハ三月下旬ヨリ、四國略之=等シ、中國、近畿ハ四月上旬ヨリ五月=及ビ、ソノ他ハ四月上旬ヨ

リ五月中旬ニ至ル。本種ハ單爲生殖ヲ行フ。

產地 九州（殆ド全體、但シ東南方ハ稀生）、四國（粗密ノ別アルモ全體）、近畿（同上）、東海道（同上、武藏相模以東ハ點生乃至稀生）、北陸道（北ハ加賀越中マデ及能登ノ南部）、中山道（近江、美濃、飛騨ノ極南部、信濃ノ極南部）

分布 日本特産種ニシテ他ニ産セズ、即チ朝鮮、滿洲、支那、臺灣等ニハ分布セズ、若シ是等ノ地方ニ白花品アラバ凡テ自然生トシテハ別種ナリ。水平分布ハ南ハ薩摩ニ起リ點々稀生シ、九州ハ中部以北ニ大發展ヲ送ゲ密群落ヲ成セドモ、大隅日向豊後等ノ外帶地域ニハ產地稀ナリ；四國ハ全體ニ分布スルモ場所ニヨリ地方ニ依テ粗密ノ別アリ；中國モ同上ナルガ山陰道即内帶ニ於テハ稍少ク往々稀生シ又ハ分布セザル地方アリ（黃色種モ同様至テ少ク、本屬ヲ見ザル地方所々ニアリ）；近畿地方ハ紀伊マデ分布シ普通黃花種ト略等シキカ或ハ少ク所在ニ普通ナリ；北陸道ハ若狹ヨリ越中ノ中部ニ絶エ越後ニ及バズ；中山道ハ近江、美濃ニ分布シ飛騨ト信濃ハ極南ニ點生ス、即チ飛騨ハ益田群ノ極南ニノミ産シ、信州ハ大部分之ヲ産セザルモ僅カニ木曾谷ノ南方（吾妻、山口、田立ノ三村）及ビ下伊那郡ノ南中部（上飯田町以南、飯田町、松尾、伊賀良、會地、山本、平岡ノ諸村）ニ産シ東海道ト連絡ヲ保ツ、但シ北信地方ノモノハ別種（うすぎたんぽぽ）ナリ、甲州ハ東海道ト連絡シツツ甲府盆地ニ粗ニ分布シ北ハ韮崎附近ニ及ブ、上野下野共ニ産セズ；東海道ハ全體ニ分布スルモ關東ニ入りテハ稀生又ハ點生シ北ハ武藏野ニ絶エ、東北ハ常陸ノ中部ニ絶ユルガ如シ；奥羽地方ニ産スル白花品（おくうすぎたんぽぽ、なんぶしろたんぽぽ、うすぎたんぽぽ）ハ凡テ別種ナリ。垂直分布ヲ調査スルニ本種ハ平地山麓ノ陽地ニ廣布シ、山中特ニ深山陰地等ニハ分布セズ、又山腹以上ニ見ザルヲ常トス、即チ本州ニ於テハ平地山麓ノ外ハ殆ド見ルコトナク、四國、九州ニ於テモ所謂山地特ニ山腹以上ニハ産セザルガ如シ、故ニ垂直的ニハ本種ノ分布ハ海邊ヨリ標高五六百米迄分布スルモノノ如シ。北海道以北ニハ白花品ヲ見ズ。

備考 効用（食用、藥用、觀賞用、茶代用）等其他ニ就テハ別ニ述ブルコトトスベシ。

2. *T. aurantiacum* DAHLST. (l. c. p. 9)；日植總覽、p. 1272.

和名 かばいろたんぽぽ(正名)……牧野富太郎、根本莞爾共著、日植總覽第一版、p. 102 (1925)。

形質 形質しろたんぽぽ(前記)ニ近似スルモ頭花ハ橙黃色美麗ナリ。總苞ハ鐘狀圓柱形圓底長 1.7-2 セメ；總苞外列ハ散開—平開往々多少反捲、列片ハ

卵狀披針形—長橢圓狀披針形、白膜緣又淡紅膜緣；同內列ハ單列直斜生、線形—披針狀線形、上部外面ニ黑紫色角狀突起ヲ具フ；花ハ橙黃色、周邊舌狀小花ハ外面暗紫色、徑 2-35 ミメ

產地 不明

分布 日本特産

備考 本種ハ日本ヨリ出デタルモノトシテ 1907 年 DAHLSTEDT 氏ハ Act. Hort. Berg. IV. no. 2. p. 9 ニ發表セシモノニ係リ美事ナル彩色圖ヲ附セリ。本種ハ形質共ニしろたんぽぽニ似タルヲ以テ想フニ其レヨリ出デタル突然變異種ナラン、余ハ別ニしろたんぽぽノ變種トシテ硫黃色花品きばなしろたんぽぽ (*T. albidum* var. *sulfureum* var. nov. Flores semper flavi, ceterum ut in typo. Hab. Kiusiu) ヲ發見シタレバ此想像ハ不當ニ非ルベク日本何所カニカツテ生ゼシモノナラン。

3. **T. japonense** NAKAI 上高地天然紀念物調査報告、P. 32 (1928); Y. Miyaji, Bot. Mag. Tokyo, P. 407 (1932); 日植總覽、P. 1272. (第3圖 18, 19 第4圖 12 第5圖 4, 31, 32 第6圖) 2 第7圖 8, 49, 58)

Syn. *T. alpicola* KITAMURA, in Phytotax. et Geobot. II. 2. P. 123 (1933)

和名 みやまたんぽぽ(正名)……牧野富太郎、植雜、XIX. P. 29 (1905)。たかねたんぽぽ(異名)……志村寛、高山植物採集及培養法、P. 144 (1909)。ゑぞたんぽぽ(異名)……宮部金吾、三宅勉共著、樺太植物誌、P. 285 (1915)。たてやまたんぽぽ(異名)……北村四郎、植分地、II. 2. P. 123 (1933)。

形質 全株小—中形、略 10-30 セメ長 稍少葉黃花。根ハ細短又ハ頗長大、1-2 頭。葉ハ斜上—亞直生、綠色、稍無毛—細毛粗生稀稍密生、匏形—匏狀倒披針形稀倒卵狀長橢圓形、殆全緣—粗微齒緣—缺刻緣、往々不整逆向羽狀淺—深裂緣、狹有翼長柄、微突端；花軸ハ 1-3, 花時多少葉ヨリ超出、上部羊毛稍密—密生、他ハ粗生—稍無毛；頭花ハ中形、總苞ハ卵—卵截底蒼綠色概有白粉霜、上端濃色、内外 2 列生、列片ハ無角概無毛；總苞外列ハ 2-3 列生、壓伏—屢斜上多少散開、卵形—長橢圓形—長橢圓狀卵形、概ネ短有尾、鈍頭、全緣無毛—上半微細短毛緣、稀稍毛緣、背面無毛多平行脈稀細短毛粗毛；同內列ハ亞直生、外列片ノ倍長内外、線形—線狀披針形—長橢圓狀披針形、鈍頭、全緣無毛—上方短細毛緣、1-3 條脈、狹透明膜緣；小花團ハ中形、徑 3-4 稀 4 セメ黃色、小花ハ 13-17 稀 15-19 ミメ長、中部花冠毛極粗—粗生稀無毛；瘦果ハ倒卵狀

長橢圓形、長 3.5-4 稀 4.5 ミメ、幅 1 ミメ、藁色—藁淡褐色、極微刺滿布、果頭ハ有節又ハ無節狹倒圓錐形 1-2 溝、果體ハ倒卵形、2 深溝 3 大肋、棘狀突起密生、棘ハ斜上生鋭頭無枝—有枝—鱗狀、漸下低小形遂ニ瘤起ニ變化、副溝數個、果脚ハ同溝下部 2-3 併合、概ネ有瘤起微刺稍密生兩側者稍大形、果嘴ハ果本體ノ 2-3 倍長、冠毛托ハ明ニ盤狀稍倒圓錐形微齒緣褐色、冠毛ハ淡褐白色—汚白色 6-8 ミメ長。

生態 日本中部ノ高山寒地帯ニ生ジ好シデ中生御花畑ニ點々粗生乃至稀生スレドモ往々粗群落ヲ作ル、屢砂礫地ニ見ルモ草叢又ハ濕地ニ生ゼズ、生所ニ於テ根ノ發育ニ大差アリ往々長大トナリ 30-50 セメニ達ス、寒地草本帯中ノ美的要素ノ主要者ナリ。花候ハ七月中旬ヨリ八月下旬ニ亘ルト雖モ雪田雪溪側近者ハ意外ニ遅ルルコトアリ。

産地 日本中部ノ寒地帯ニ限り飛驒山系、木曾山脈、赤石山系、八ヶ岳、白山、頸城山脈ニ産シ、越後、越中、加賀、飛驒、信濃、甲斐、駿河ノ諸國ニ跨ル。

分布 本種ヲ千島、樺太、北海道ニ産スル如ク傳フルハ凡テ誤リニテ上記ノ如ク日本本州中部ノ高山寒地帯ニ廣布スルノミ、即チ日本特産種ナリ。該地方ニハ各高山ノ寒地灌木帯及寒地草本帯ニ珍ラシカラズトナスハ余ガ十數年來日本中部ノ各高山ヲ悉ク登山調査セル結果ニ基クモノニテ、垂直分布ハ略 2500 米以上各高山ノ絶頂迄生ジ得ベキモノナリ、サレバ甲州北岳頂ニモ産ス、但シ山岳位置ト雪田雪溪ノ位置ニヨリ寒地帯ノ低下シアル場合ニ於テハ 2500-2200 米ニ及ブコトアリ、而テ遺存寒地帯ノ場合ハ之ヨリ遙カニ降下シ得ベシ。

備考 本種ハ古クヨリ採集家ノ間ニ知ラレシ寒地植物ノ一ナレドモ和名學名共ニ混亂ヲ來タシ一定スル所ナカリキ、即チ 1905 (明治三十八年) 年ニ牧野博士ハ *T. officinale* WEB. var. *lividum* KOCH. ナル學名トみやまたんぽぽナル和名トヲ與ヘラレシガ、其後たかねたんぽぽト稱スル者簇出シみやまたんぽぽノ正名ハ忘レラレントスルニ至レリ。學名ハ其後 1919 年ニ植雜 XXXIII, P. 207 ニ小泉源一博士ニ依テ *T. platycarpum* DAHLST. var. *montanum* NAKAI トシテ發表サレ、次ニ同、XXXVIII. p. 96 (1824) ニ *T. ceratophorum* DC トシテ發表サレ、次ニ中井博士ニ依テ上高地天然紀念物調査報告書 P. 32 (1928) ニ新種 *T. japonense* NAKAI トシテ發表サレ此ニ初メテ本種ノ天籟ハ明確トナル、次ニ宮地氏ハ植雜 XLVI P. 407 (1932) ニ本種ノ染色體數ヲ前記學名ニ附帶發表シ學名ヲ確定セリ。然ルニ其後京都大學ノ北村四郎氏ハ以上ノ歴史ト道義ニ拘ラズ突然ニ植分地、II. 2. P. 123 (1933) ニ *T. alpicola* KITAMURA たりやまたんぽぽトシテ發表セリ。此學名ノ採否ニ就テノ議論ハ後日ニ譲リ無

考證ナル此學名ハ余ハ學術上ヨリモ同氏ノ爲メニモ採用セザルヲ正當ト思考ス、且ツ和名モ既ニ古クヨリ嚴存スルニ於テヤまたんぼノ異名ヲ製スル必要モナカラン、本種ハ立山ノ一角ニ特産スルモノニ非ズシテ廣ク日本中部ノ寒地帯ニ分布スル事實ハ少シク本州中部地方ノ諸高山ヲ登破セシモノノ等シク知ル所ナリ。

4. *T. japonicum* KOIDZUMI, in B.M.T. XXXVIII P. 96. (1924);
日植總覽, P. 1272. (第1圖4第5圖)
55, 56 參照

和名 くんせいたんぽぽ (正名) …小泉源一、植雜、XXXVIII, P. 96 (1924)。

形質 全株小形往々中形—稍大形屢細長、高 10-35 セメ 稀ニ 35-45 セメ内外、多葉黃花、多形ニシテ時ニ低小壓伏、時ニ斜上細長、時ニ強壯、時ニ軟弱；くんとたんぽぽ *T. platycarpum* ニ比スルニ總苞外列片ハ小形且狹長ナリ。根ハ概ネ細長往々短太、單一多頭、黑褐色、頸部多少枯屑鱗片附着又黑褐枯葉屑ニ蔽ハル。葉ハ多形、壓伏—斜上—亞直生、草質、淡綠—綠色往々濃綠、無毛—有毛、下面特ニ主脈上粗—稍密生往々有蜘蛛毛後屢稍無毛、筵形—筵狀倒披針形、鈍—鈍銳頭稀ニ微凸頭、脚狹搾、8-20 セメ 稀 20-30 セメ長、8-30 ミメ稀 30-50 ミメ幅、缺刻緣—不整逆向羽狀淺深裂緣、稀ニ粗微齒緣、無翼—狹翼長柄；側裂片ハ概三角形全緣—粗齒牙緣、銳頭、頂裂片ハ三角形—菱狀又橢圓狀三角形。花莖ハ 1-12 直生—斜上生、花時葉ト同長内外—超出、果時概超出、上端密—濃密蜘蛛毛狀羊毛發生、他ハ無毛—微毛。頭花ハ小—中形徑 2.5-3.5 セメ黃色；總苞ハ卵—倒卵底、淡綠—深綠色稀ニ霜粉蒼色、列片ハ概有角；總苞外列ハ 2-2.5 稀 3 列生、壓伏、小形、長橢圓狀卵形—長橢圓狀披針形、鈍頭、有角往々無角、微毛緣—長軟毛緣、背面無毛、長 3-5 ミメ 稀 5-6.5 ミメ、幅 1.5-2.5 稀 2.5-3 ミメ、不明—稍明網脈；同内列片ハ外列片ノ 2.5 倍内外、披針狀線形—線形、鈍頭、有角、往々無角、1-3, 1-3 縱脈、無毛、透明狹膜緣、長 9-13 稀 13-15 ミメ；小花團ハ稍粗—密小花、小花ハ 12-16 ミメ長、中部花冠毛粗生、毛ハ單列 1-5 細胞毛。瘦果ハ倒卵長橢圓形、長 3.5-4 ミメ幅 1.3-1.6 ミメ、藁色往々淡褐藁色、極微刺滿布；果頭ハ短、狹倒圓錐形 2 溝 3 肋有節—稍無節；果體ハ 7-9 溝、其中深溝 2-3、單一鱗狀銳棘密生斜上、棘ハ漸下小形遂ニ瘤起ニ變化；果脚ハ下狹搾截底、同溝下部減溝、兩側微刺稍大形；果嘴ハ 5-7 ミメ長、絲形、淡藁色；冠毛托ハ稍有盤狀倒圓錐形、無齒—粗鈍齒緣；冠

毛ハ ∞ 淡褐白色 稍白色 4-5 ミメ長。

生態 日本暖溫帶ノ陽地ヲ好ミ原野路傍、堤上、畑地等ノ中性地ニ生ジ濕地ニ生ゼズ、稀ニ粗林下ニモ生ズ、平地乃至山麓ニ多ク往々山腹山頂ニ見ル、概ネ粗——稍密生群落ヲ成シ單生者少シ。形質ニ變化多ク或ハ硬或ハ柔、根生葉ハ時ニ壓伏時ニ斜上。花候ハ三月下旬乃至五月中旬。

產地 九州(筑前)、中國地方(各地)、四國(阿波 讃岐、伊豫?)、近畿(全體)、北陸道(若狹、越前、加賀)中山道(近江、美濃)東海道(志摩? 伊勢? 伊賀? 尾張?)。

分布 日本特産種ニシテ關西地方ニ廣布シ北ハ美濃ニ起リ南ハ近畿、四國、中國ヲ經テ九州北部ニ及ビ所在ニ普通ナリ、垂直的ニハ海邊ヨリ平地山麓ヲ普通トシ屢々山地ニ登リ海拔五六百米内外以上ニ達スルコトアリ、例ヘバ高野山頂附近ノ如シ。

備考 本種ハたんぽぽ屬ノ黃花種中關西地方ノ最普通品ニシテ古來單ニたんぽぽト稱シ眞ノたんぽぽト區別セザリキ、くわんせいたんぽぽナル和名ハ關西地方ニ廣布スルニ基因ス。

5. *T. laevigatum* DC. Catal. Hort. Monspel, P. 149 (1813); 日植總覽, P. 1273、(第1圖 7 第3圖 11-13 第4圖 2-3, 9 第5圖 3, 35, 36 第6圖)。

和名 きれはあかみたんぽぽ(正名)……小泉源一、植雜、XXXVIII. P. 94 (1924)。

形質 全株小一中形、多葉黃花、高 10-45 セメ。根 1- ∞ 頭、黑褐色、概細短、頸部鱗屑殆無一粗着小形；葉ハ概 ∞ 平伏一斜上稀亞直生、綠色無毛一微毛、筵形一筵狀倒披針形、不整逆向頭大羽狀中一深一殆全裂、無翼細長柄、銳頭一銳尖頭稀微凸頭、羽裂片ハ線形一三角線形一長三角形稀三角形小齒牙緣、間裂片ハ1-3 對小形又無、頂裂片ハ三角形一戟形；花莖ハ 1-13 概ネ ∞ 、花時葉ヨリ低、往々超出、直生一屈曲、上端密羊毛一殆無毛、他ハ無毛一殆無毛；頭花ハ中形黃色；總苞ハ卵底、蒼綠色概粉霜、裂片ハ概多少有小角往々殆無角；總苞外列ハ 1.5-2.5 列、反捲垂下、長橢圓形一披針形概無有尾、鈍一鈍銳頭、全緣無毛、極稀微毛、概半透明乾皮膜緣、網脈一多縱脈；同內列片ハ線形一鑿形、鈍頭無毛狹透明膜緣、1-3 行脈；舌狀小花ハ黃色下面褐赤色、中下部細毛稍密生、毛ハ 3-8 往々 1-2 細胞；瘦果ハ長形濃美紫赤色稀褐赤色、長橢圓狀紡錘形、尖頭截底、果頭ハ狹長圓錐形 1-2 溝無節、極微刺滿布往々小棘 1-5 側生、

果體ハ 5-8 溝、6-9 肋、斜上角棘密生漸下低小瘤起ニ漸變、滿面極微刺生、果脚ハ同溝同肋(時ニ減數)上部殆平滑無刺一極微刺、下部有微刺兩側刺特ニ大形 1 列、果嘴ハ果本體ノ 2-3 倍長、冠毛托ハ倒圓錐形微鈍齒縁、冠毛ハ ∞ 淡褐白色。

生態 渡來種ニテ原野、路傍、堤上畑地ノ別ナク好デ群生シ粗乃至密生ス、往々大株トナリ無數ノ葉ヲ叢生ス、總苞外列片ハ幼蕾ニ於テハ直生スルモ直チニ反捲シ初メ半開時十分トナル。花候ハ 3-5 月ナルモ北方ニテハ 6-7 月ニ渡ル。(樺太等)。

産地 北海道(最モ多産シ、最適地ナルガ如シ、石狩、天鹽、北見、後志、等西北部地方ニ産シ東南方ニハ未ダ産セザルベシ、然レドモ漸次膽振十勝、釧路根室等ニモ侵入スルハ時期ノ問題ナラン)、樺太(南半部所々ニ見ルモ其數多カラズ)、本州(奥陸、陸中、信濃、越中、武藏等ヨリ得タルモ此他ノ諸國ニモ既ニ傳播シ居ルナラン)、四國(伊豫ヨリ得タルモ他ニモ産スルナラン)、九州(産否不詳)。

分布 北米ハ原産地ニシテ是ヨリ歐洲、小亞細亞、西比利亞西部、亞弗利加北部、日本等ニ傳播セリ。日本ニ於ケル水平分布ハ現在北ハ樺太南部ヨリ本州ヲ經テ四國ニ及ベドモ九州其他ニモ傳播シ得ベシ否傳播シ居ルヤモ知レズ、恐クハ數十年後ニハ日本全體又ハ過半ニ廣布シ本屬中ノ最優勝者ノ一トナルベキヲ豫想セラル。垂直分布ニ於テモ適地幅廣ク海邊、平地ヨリ山麓ハ元ヨリ北海道ニ於テハ千米以上ノ寒地帶ニ傳播シ御花細中ニ余ハ發見セリ、かんちあかみたんぽぼ var. *frigidum* ト稱スルモノ是ナリ、而テ余ハ未ダ山腹地ニ發見セルコトナキモ盛岡高農ノ加藤運彌氏ハ陸奥國酸ケ湯附近ニ採集セリ。

備考 日植總覽 1273 頁ノきれはあざみたんぽぼハ誤記ナリ。

6. **T. longe-appendiculatum** NAKAI in B. M. T. XL. p. 576 (1926); 日植總覽, p. 1272. (第 1 圖 16 第 5 圖 57, 58)。(第 7 圖 10, 19, 20)。

和名 ひろはたんぽぼ(正名) … 中井猛之進、植雜 XL. p. 576 (1926)。

形質 全株小一中形、稍粗葉黃花、高 10-15 稀 15-20 セメ。根ハ往々長大概單頭、頸部鱗粗着。葉ハ斜上生、綠色、表面白細毛粗布脈上稍密布、裏面脈上外無毛、倒披針形一筵狀披針形、微凸頭長楔脚、狹長一無翼有長柄、微齒牙縁一缺刻縁稀不整羽淺一中裂、長 5-10 セメ幅 6-20 ミメ。花莖ハ 1-4、花時花ト同長内外又超出、上部蜘蛛毛一羊毛稍密布、他ハ概無毛。頭花ハ中形黃色；總

苞ハ淡緑一綠色、倒卵底一圓錐底又ハ卵底、覆瓦狀、概内外列稍分明一不分明；總苞外列ハ2,5-3列生緩接多少散開、往々外中片半反捲、卵狀披針形一披針形、長6-10稀10-12ミメ、多少有尾、緣邊無毛一有毛、先端屈曲鈍一銳頭、背面具大角、角ハ囊狀角形一短錐形斜上、銳端、長2-6ミメ；同内片ハ披針形一鑿狀披針形有尾、鈍一銳頭、長11-14ミメ、概有角、角ハ小一中形、無毛一上部微毛緣、狹透明膜緣、1-3行脈；舌狀花ハ黃色下面紫褐條、長10-14ミメ、中部細毛稍密生、毛ハ細長5-10細胞。瘦果ハ扁紡錘形藁色一淡藁褐色；果頭ハ棒狀有節一稍無節、極微刺密生、無溝一2溝；果體ハ4-6溝、斜上棘密生下部漸瘤起、極微刺滿布；果脚ハ同溝同肋或減數、兩側小刺1列生他ハ無刺殆平滑；果嘴ハ絲形、冠毛托ハ有盤倒圓錐形無齒緣；冠毛ハ ∞ 類白色一淡褐白色。

生態 好デ海邊ニ生ズレドモ往々海岸ヨリ少ク離レタル丘麓又ハ山腹ニ生ズルコトアリ、然レドモ内陸生ノモノニ生ズ、多クハ點生乃至粗生シ密群落ヲ作ラズ、邦産中角狀突起ノ最大種ナリ。花候ハ4-5月。

産地 本州中部（伊豆、駿河、伊勢、志摩、三河？）

分布 日本特産種ニシテ東海道太平洋沿岸ノ伊豆伊勢間ニ分布シ他ニ産セザルガ如シ。

T. lyratum DC. Prod. VII. p. 148 (1833); MIYABE, Fl. Kuril. p. 245 (1890); SCHMIDT, Fl. Sachal. p. 154.

和名 ちしまたんぽぽ…松村任三、帝植名鑑、II. 1. p. 668 (1912).

備考 本種ハ日本領内産否？種ニ係リ植研 X. 1. p. 29 (1934)ニ述ベシ如ク日本ニ産セン確證ナシ。最初1890年ニ宮部博士ハ千島植物誌ニ於テ *Turczaninow* 氏ノ報告ニ基キ千島列島ノ何所カニ産スルナラントノ考ノ下ニ記載サレシモノナルガ、元ヨリ日本ニ原標本ナシ、次ニ同博士ハ三宅勉氏トノ共著樺太植物誌 286頁 (1915)ニSCHMIDT氏ノ報告ニ基キ中知床半島ノ「チシナイ」附近ニ「グレーン」氏ノ採集セルコトヲ記サレタルガ原標本ハ日本ニ無シ。以上ハ標本無クシテ單ニ報告ニ據レルニヨリ該原標本ヲ檢定セザレバソレハ果シテ *T. lyratum* ナリヤ否ヤ斷定シ難シ、特ニ古キ當時ノ本屬ニ對スル研究ノ幼稚ニシテ不確實ナルハ植物諸屬中ノ分類最至難屬ノ一トシテ疑ハザルヲ得ズ、此點ハ日本古來ノ本屬研究ノ跡ヲ再檢スレバ思ヒ半ニ過ギンノミ。惟フニ千島産モ南樺太産モ共ニ疑問種トシテ *T. lyratum* ノ存否ヲ確定セザルヲ可トス、確定ハ標本アルモノニ限ルヲ最良トス、然モ其後眞ノ *T. lyratum* ヲ

バ日本領内ヨリ採集セシ人無ク又日本ノ各大學ノ標本室ニモ本種ヲ藏スル所ナカルベク又個人トシテモ所藏スル人ナカルベシ、余ハ千島及樺太ノ本屬ノ標本二百五十以上ヲ調査セルモ本種ニ接セズ、又北海道ニモ産セズ。LEDEBOUR 氏ノ Fl. Rossicum ノ圖及記載ヲ見ルモ、DE CANDOLLE 氏ノ Prodrumus ノ記載ヲ見ルモ日本領内之ニ合致スル種ナシ、此後何所ヨリカ發見セラルミマデハ此學名及和名ハ日本植物國籍ヨリ除去スベキモノト信ズ。尙 LEDEBOUR 氏ノ圖ハ Monographie der gattung *Taraxacum* ヲ著セシ HANDEL-MAZZETTI 氏ノ同書記載ニ合致セザル所アル外、Botanical Gazette, LXX. p. 332 ニ記スル本種ノ圖モ亦前記ノ圖ト合致セズ、而テ其分布ハあるたい、ばいかる、かむさつか、あなぢる、ありうしやん群島、あらすか及ろつきー山脈ナリト云フ。サレバ千島ニ産スルヤニ推察サルルモ未發見ナルノミナラズかむさつかノ植物ヲ探檢詳記セル HULTEN 氏著 Fl. Kamtschatka ニモ記載セズ。要之日本ニ現標本ナク且ツ産否疑ハシク、原標本モ鑑定疑ハシキ理由十分ナルモノハ日本植物國籍ヨリ除去スルニ如カズ、依テ余ハ確證ヲ得ルマデハ國籍ヨリ除去ス。

7. *T. offinale* WEB. var. *genuinum* KOCH. in Syn. p. 367; 日植總覽, p. 1273. (第2圖 5-6 第3圖 16 第6圖 15)。
(第7圖 5, 15 第8圖 18, 21, 24)。

和名 せんやうたんぼ(正名)……牧野富太郎、根本莞爾共著、日植標目錄、p. 31. (1914)。

形質 全株小一中形稀大形、多葉黃花、高 10-25 稀 25-35 セメ。根ハ概細短稀稍肥大 1—數頭、頸部鱗屑無又粗着。葉概多數開出一斜上稀亞直生、綠色表裏多少有毛、倒披針狀長橢圓形一倒披針形、逆向羽狀淺一深裂、屢缺刻緣、銳頭狹脚、無翼有長柄、裂片ハ三角一長三角形銳頭全緣一粗齒牙緣、間裂片ハ小形概發達。花軸ハ 1-5、花時葉ト同長内外屢挺出、上端羊蜘蛛毛稍密生、他ハ殆無毛一粗毛。頭花ハ中形黃色；總苞ハ鈍卵底蒼綠色多少粉霜、明ニ 2 列、列片ハ無毛無角；總苞外列ハ 2-3 列生、全反捲垂下、内面淡緣白乾質、長橢圓形一披針形有尾鈍頭、無緣膜、背多行脈；同内列片ハ披針形一線狀披針形、鈍端狹透明膜緣、1-3 行脈；舌狀小花ハ黃色、長 12-17 ミメ、中部細毛密生、毛ハ 3-12 細胞列。瘦果ハ紡錘狀長橢圓形、長 4-5 ミメ淡褐一オリーブ褐色又藁黃色；果頭ハ無節、狹倒圓錐形 2 稀 3 溝極微刺滿布；果體ハ橢圓形 6-3 溝、斜上銳頭棘密生、漸下低小瘤起ニ漸變、極微刺滿布；果脚ハ同溝漸下減無瘤起殆平滑一溝側極微刺單縱列生、兩側微刺單列生；果嘴ハ果本體 2 倍内外；冠毛托ハ

倒圓錐形鈍微齒縁；冠毛ハ ∞ 淡褐白色。

生態 渡來種ニテ原野、路傍、堤上園圃ノ別ナク好デ群生シ粗乃至密生ス、往々大群落ヲ作ルコトアリ、地ノ肥瘠ニ依テ花葉ニ大小ノ差アレドモ開花時ノ頭狀花ノ舌狀花周邊輪廓ハ出入殆無ク整齊セル圓形ナルハ見逃スベカラザル特徴ナリ、又總苞外列片ノ強ク反捲下垂スルハ此種ノ殊標ナリ。花候ハ三月下旬ヨリ五月ニ至ルモ往々開花季節外ニモ開花ス、即チ產地ニ依テハ往々二月又ハ秋季ニ開花ヲ見ル。

產地 樺太（南樺太ハ全體ニ粗布、北樺太ハ？）、北海道（北見、天鹽、石狩、後志、渡島、膽振、十勝、釧路？根路？）千島（未發見）、本州（陸奥、陸中、羽後、信濃、武藏等）、四國？、九州（肥後熊本其他ハ？）、其他ハ？

分布 元來歐州種ナレドモ傳播力強ク、歐洲ニ廣布セル外北米ニ廣布スルニ至リ、亞細亞ニ於テモ可ナリ傳播廣布センモノノ如ク、現今ハ舊日本全體ニ廣布セントスルコト恰モきれはあかみたんぽぽト同一ナリ、恐クハ前者ト共ニ日本全體ニ分布スルノ時期ハ遠キニ非ルベク他ノ日本固有種ヨリモ却テ所在ニ普通品トナルナラン、今ハ鮮滿支ノ各地ニモ傳播センヤモ知レズ、傳播經路ハ種々ナレドモ前者ト共ニ主トシテ交通運輸機關々係ニ依ル外國藝種子ニ混合シツ、各地ニ傳播スルモノノ如シ。垂直分布トシテハ海邊、平地ヨリ山麓ニ及ビ海拔六百米（例、信州松本）ニ及ブモ未ダ山中山頂ニ見出セズ。

備考 本種ハ日本ニ於テ本屬種輸入ノ魁ニシテ最初ハ北海道札幌及其附近ニ發生センモノノ如ク既ニ 1904 年（明治三十七年）牧野博士ノ報知〔第一章ノ文献(6)〕アリ。本種(甲)ハきれはあかみたんぽぽ(乙)ト共ニ適應性極メテ強ク傳播力大ナリ、サレバ日本各地ニ恰モ自生ノ如ク野外又ハ園圃ニ群落ヲナシ屢々乙者ト混生スルコト少ナカラズ、此場合ハ兩者ハ酷似シ初學者ハ到底區別スベカラザルモ次ノ急所ヲ觀レバ自ラ判然スベシ、即チ果實アル場合ハ甲ノ果實ハ淡褐一葉黃色又ハ「おりーぶ」褐色ナルモ乙ハ濃赤紫色一褐紫色、果實ナキ場合ハ總苞片ニ依テ區別スベク乙ハ甲ヨリ遙ニ粉白且ツ多少ノ小角（澤山ノ苞片中 1—數ヶハ見出シ得、但シルーペ採用）アルヲ以テ識別スベシ、尙總苞外列片ハ多少ノ半透明緣膜アルハ乙ノ特徴ニシテ甲ニハ之ヲ見ズ。其他果實ノ形質モ冠毛托ノ形狀モ全然異ルハ記載ヲ比較シテ窺知セラルベシ。

8. *T. platycarpum* DAHLST. in Act. Hort. Berg. IV. 2. p. 11 (1907); 日植總覽, p. 1273, pro parte. (第 8 圖 28)

和名 くぁんとうたんぽぽ(正名)……小泉秀雄、植研、IX. 491 (1933).

形質 全株小形—中形屢稍大形、稍多葉黃花、高 10-20 屢 20-27 セメ。根ハ 1-2 頭、細短—稍長太、黑褐色、頸部鱗屑粗—密着。葉ハ開出一斜上稍亞直生、15-35 簇生、淡綠—綠色、表面有毛裏面少毛—無毛稀兩面無毛、篋形—倒披針形、稀長橢圓狀篋形、稍頭大下向不整羽殘—深裂、稀殆全裂又微齒牙緣—缺刻緣、銳頭—微突尖頭稀鈍—鈍圓頭、狹脚、多少狹有翼長柄下部最大幅；羽裂片ハ三角—長三角形、銳—銳尖頭、全緣—細齒牙緣、頂裂片ハ三角形戟狀三角形、間裂片ハ多少發育小形。花莖ハ 1-12、花時葉ト同長内外又超出、上端白—淡褐白羊毛—蜘蛛毛密—稍密生、其他ハ殆無毛—少毛稀稍密毛。頭花ハ小—中形黃色；總苞ハ卵底—倒卵底、淡綠色濃綠主脈、明 2 列、列片ハ概有毛有角；總苞外列ハ 2,5-3 列生、緩接斜上多少散開、長橢圓狀卵形—長橢圓狀披針形、7-10 ミメ 長 2,5-4 ミメ 幅、鈍—鈍銳頭、概有角稀無角、角狀突起ハ概大形屢小形、粗—密毛緣、半以下多少半透明膜緣、脊部無毛稀少毛不明網脈—多行脈；同内列片ハ線狀披針形—鑿形、外列片ノ倍長内外、鈍銳頭狹透明膜緣、上部多少粗微緣毛、往々無角；舌狀小花ハ黃色、下面多少暗褐紫色、長 10-15 ミメ 内外、中部細毛極々粗—極粗生、毛ハ 1-6 細胞。瘦果ハ紡錘狀長橢形尖頭截底、長 4-5 ミメ、淡褐—藁黃色；果頭ハ狹倒圓錐形有節—稍無節、1-2 溝、極微刺滿布；果體ハ 5-6 溝、橢圓形、斜上無枝—稍無枝鈍銳—鈍棘粗—稍密生、漸下鈍瘤起=變化、上半部極微刺粗—散生下半部概無疣平滑無刺；果脚ハ下部減溝無疣、極微刺粗生、兩側微刺單列生；果嘴ハ絲形、果本體ノ 2 倍内外；冠毛托ハ倒圓錐形又厚盤狀倒圓錐形稀有節；冠毛ハ淡褐白色—淡褐色。

生態 陽地ヲ好ミ原野、路傍、堤上、園圃等ニ生ジ、點生乃至群生シ、地味ニ依テ花葉ニ大小ノ差アリ、芝生中ニ生ズルモノハ特ニ小形ナリ。花候ハ三月下旬ニ初マリ四月末ハ最盛期ニシテ五月半ニ入りテ開花減少ス。

產地 常陸、武藏、下總、相模、駿河等ノ所謂關東地方一圓ニ産ス。

分布 關東地方一圓ニ分布スルモ上野下野ニ産セザルベク、安房、上總、伊豆亦確證ナシ、而テ西南ハ箱根ヲ越ヘテ駿河ニ入レドモくわんせいたんぽぽノ分布區域ニ浸入シ居ラズンテ自ラ關東地方ヲ分布地トナスニヨリ上記ノ和名ヲ與ヘタリ。日本特産。

備考 本種ハ世上ニ流布スル圖鑑、圖說等ニ眞正ノたんぽぽニ混合記述セラルルヲ常トス、日植總覽 1273 頁ノたんぽぽノ記述ハ學名ハくわんとうたんぽぽノ學名ナルモ記載ハ本種トたんぽぽトノ混合記載ナリ、故ニ此學名ニ相當スル和名ハ別ニくわんとうたんぽぽト改メ、記相文中ヨリたんぽぽニ當ル部分ヲ除キ、別ニ書キ改ムル必要ヲ生ズルニ至レルナリ。而テベにばなたんぽぽハ

T. platycarpum ノ變種＝非ズシテたんぽぽ *T. hondoense* ノ變形ナル＝ヨリ之ハたんぽぽノ條下＝併記スベシ。

〇種ノ檢索表

以上八種ノ識別ハ次ノ檢索表ヲ以テ示スベシ、但シ本屬種ノ鑑定ハ非常ニ困難ナルモノナレバ、種ヲ斷定スルニハ練達ノ士以外ハ檢索表ノミニ據ルコトナク、以上ノ種ノ記相文ヲ實物ヲ實驗觀察シツ、讀ミ合ハセ、合致スルヤ否ヤヲ精檢スル勞ヲ厭フコト勿レ。

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1 | { | 花ハ白色、(葉ハ斜上一亞直生銳頭—銳尖頭狹翼長柄—總苞外列片ハ散開—半反捲内外列片共ニ概無毛概有角、舌狀花ノ中部ハ細胞毛極粗生、果本體ハ無嘴有鱗枝棘密生 5-7 溝脚略平滑冠毛托ハ鈍微齒緣、日本中部—九州間ニ分布)…………… | しろたんぽぽ <i>T. albidum</i> DAHLST. |
| | | 花ハ柑色（橙黄色、樺色）又ハ黄色ナリ…………… | 1 |
| 1 | { | 花ハ柑色、(總苞外列片ハ散開—半反捲無毛白膜—淡紅膜緣、舌狀花ハ樺色外面暗紫色)…………… | かばいろたんぽぽ <i>T. aurantiacum</i> DAHLST. |
| | | 花ハ黄色ナリ…………… | 2 |
| 2 | { | 總苞外列片ハ花時凡テ強ク反捲垂下ス…………… | 3 |
| | | 總苞外列片ハ花時壓伏又ハ斜上散開、稀ニ一部少ク反捲…………… | 4 |
| 3 | { | 總苞片ハ多少有小角、果實ハ赤紫—褐紫色、(葉ハ概 ∞ 壓伏—斜上概細裂—殆全裂無毛—殆無毛、花莖ハ概 ∞ 花時概葉ヨリ短、總苞片ハ蒼綠粉霜稍顯著、外列片ハ多半透明膜緣、果木體ハ紡錘形棘狀突起ハ銳細長無分枝果頭ハ柱狀兩側概有小棘冠毛托ハ小倒圓錐形無盤無齒—不明鈍齒)…………… | きれはあかみたんぽぽ <i>T. laevigatum</i> DC. |
| | | 總苞片ハ凡テ無角、果實ハ淡褐—藁褐—藁黄色、(葉ハ概少數斜上一亞直生缺刻—羽狀淺—深裂多少有毛、花莖ハ概少數花時概葉ト同長内外、總苞片ハ蒼綠多少粉霜外列片ハ無透明膜緣、果木體ハ長橢圓形—紡錘形棘狀突起ハ積太多少有枝分裂果頭ハ狹倒圓錐形兩側無小棘冠毛托ハ倒圓錐形多少有盤有緣微鈍齒)…………… | せいやうたんぽぽ <i>T. officinale</i> WEB. |

- 4 { 總苞片ニハ凡テ角狀突起無シ (葉ハ概小數開出一斜生一亞直生微齒一缺刻一羽裂緣微凸頭殆無毛一少毛、花莖ハ少數花時概葉ヨリ超出、總苞ハ蒼綠多少粉霜外列片ハ壓伏一消散開狹長、舌狀花中部ハ極少毛一無毛、果木體ハ2深溝有枝棘稍密生冠毛托ハ明ニ有盤有微緣齒、日本中部ノ寒地帶産) **みやまたんぼぼ** *T. japonense* NAKAI
總苞片ハ過半皆有角、淡綠一綠色 5
- 5 { 總苞片ハ内外列ノ別稍不明一不明即覆互列、角狀突起ハ 2-6 ミメ日本最長 (葉概小數開出一斜上微齒一缺刻稀羽裂微凸頭少毛、花莖ハ少數花時概超出、總苞ハ多少散開一稍反捲稀稍壓伏、舌狀花中部ハ 5-10 細胞列毛稍密生、果實ハ紡錘形 5-7 縱溝無枝銳棘密生冠毛托ハ薄板狀倒圓錐形、日本中部ノ太平洋岸及其附近産) **ひろはたんぼぼ** *T. longe-appendiculatum* NAKAI
- 6 { 全株概稍短太高 15-27 セメ、總苞片ハ概有角、外列片ハ多少緩接一散開長 7-10 ミメ (葉ハ開出一斜上稀亞直生有毛微齒一缺刻一羽裂銳頭鈍一鈍圓頭狹有翼長柄、頭花ハ小一中形總苞ハ 2.5-3 列生中形外列片ハ多少狹透明膜緣、舌狀花ハ中部ニ 1-6 細胞毛極々粗一極粗生、果木體ハ紡錘狀長橢圓形長 4-5 ミメ果頭ハ概有節 1-2 溝果體ハ 5-6 溝稍無枝鈍棘稍粗一稍密生冠毛托ハ倒圓錐形一厚盤狀倒圓錐形稍有節、關東地方ニ分布) **くわんとうたんぼぼ** *T. platycarpum* DAHLST.
全株短太又細長高 10-45 セメ、總苞片ハ有角一無角、外列片ハ概壓伏稀僅散開長 3-5 稀 6 ミメ (葉ハ多形壓伏一亞直生無毛一有毛鈍一鈍銳一微突頭無翼一狹翼長柄長 8-30 セメ、頭花ハ小一中形總苞 2-2.5 稀 3 列生小形無透明膜緣、舌狀花ハ中部ニ 1-5 細胞毛粗生、果木體ハ倒卵長橢圓形長 3.5-4 ミメ果頭ハ有節一稍無節 2 溝果體ハ 7-9 溝中深溝 2-3 單一有枝銳棘密生冠毛托ハ稍有盤狀倒圓錐形稍無齒無節、關西地方即本州中部四國九州間分布) **くわんせいたんぼぼ** *T. japonicum* KOIDE.
(未完)

追加：一第十卷二號 70 頁ノ 14 行…I) 根ノ條下ニ次文ヲ附加スル。

6) 頸部 根ノ頂端即莖下部デ裸出スル枯屑鱗片 (多ク黒褐色) 又ハ枯凋葉ヲ多少附着ス。其多少大小種類等ハ分類上大切デアル。